

Scene1 驚きと感動がお客をつかむ

- 生徒自身の経験から、ものやサービスによって驚いたり感動したりした例を挙げさせる。
- 教科書の本文を活用してまとめる。

Scene2 企業と社会を成長させる

- 日本が直面している解決しなければならぬ問題について挙げさせる。
- 教科書の本文を活用してまとめる。

解説① Scene1

Scene1の本文およびイラストを通して、顧客満足の実現がビジネスの世界では大切であることに気づかせたい。イラストの顧客の表情にも注目させ、左図ではあまり期待していなかったものが予想以上に良かった時の驚き、右図では顧客も従業員ともに笑顔である点に気づかせる。この時点ではマーケティングという用語は出さなくてもよいが、顧客満足の実現のために、それぞれの企業が切磋琢磨していることを理解させる。

+ Workの実習例

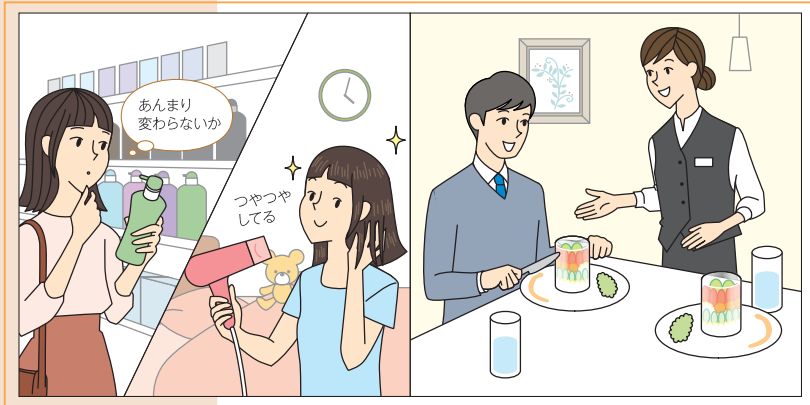
驚くほどおいしかったコンビニスイーツ。軽くて走りやすいスニーカー。家族で誕生日に訪れたお店でのケーキのサービス。など。

今、  
ビジネスの  
世界は

Business  
Scene 1  
驚きと感動がお客をつかむ

今日の私たちの社会は豊かになり、ものやサービスがあふれています。しかし、その半面、どんなものを買っても、また、どんなサービスを受けても、それほど大きな違いがないことも多くあります。

ですから、どれも同じだろうと思って買った商品が、びっくりするほど良いものであったときはとてもうれしくなります。また、泊まったホテルのサービスが行き届いていて、心も体もゆっくり休めたときは満足感でいっぱいになります。このようなとき、また同じものを買おう、またこのホテルに泊まろうという気持ちになります。



POINT 1  
イラストの顧客や従業員の表情にも注目させる。

**Work** 最近購入した商品やサービスで、人におすすめしたいと思ったものは何ですか。

ものやサービスを提供する企業は、お客の求めるものを提供しないと、たちまち競争に敗れてしまいます。そこで企業は、お客の求めるものを調査したり、売り方を工夫したり、お客のハートをつかむためにさまざまな活動を行います。この活動を通じてお客を満足させ、ものやサービスによって驚きと感動を与えることができれば、そのお客はその企業のファンになります。

このように、顧客満足の実現がビジネスの世界では重要です。ですから、お客の視点に立って、そのニーズを適切にとらえる能力を身につけることが必要になります。そのために商業を学ぶのです。

板書例

Scene1 驚きと感動がお客をつかむ  
Q. どんな商品やサービスに感動したか？  
(生徒から出た意見を書き出す)  
⇒共通する要素はあるか？  
企業は顧客満足の実現を目指して活動  
⇒お客のニーズをつかむ必要がある

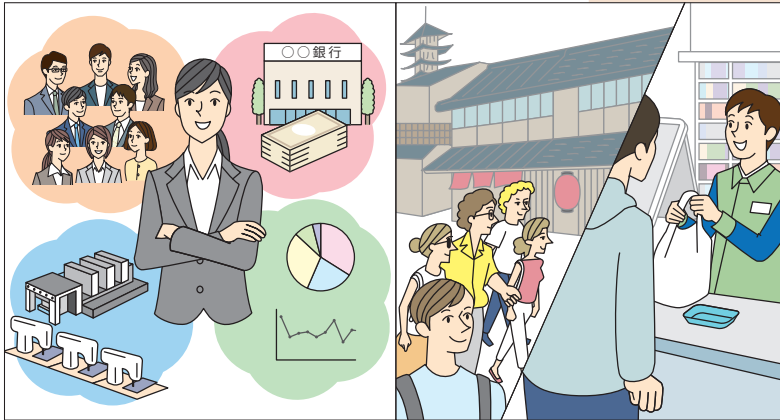
## Scene

## 2

## 企業と社会を成長させる

今日の日本は豊かになった一方で、少子高齢化  
▶p.34

ともなう労働力や購買力の低下が進み、大きな経済成長は実現し  
にくくなっています。また、新しい技術やサービスが私たちの生活  
や企業を取り巻く環境を日々変化させています。このようなビジネ  
スの世界で、企業が成長、存続していくためには、働く人を適切に  
配置して働きやすい職場をつくらせたり、設備、資金、情報などを適  
切に組み合わせたりして、変化に対応していかなければなりません。  
そして、社会に貢献しようとする姿勢も必要です。



ビジネスの世界は、国境がないと言えるくらいグローバル化が進  
んでいます。さまざまな場面で、外国の企業や外国人と直接的、間  
接的に関わることになります。

競争相手が増える一方で、国外に多くの消費者や労働者がいると  
考えることもできます。そのため、企業の活動も国内だけに目を向  
けるのではなく、地球規模で考える視点を持たなければなりません。

社会の発展のためには、経済の動きを理解して企業が社会におよ  
ぼす影響に責任を持ち、法規に基づいてビジネスを展開する能力や  
姿勢を身につけなければなりません。そのために商業を学ぶのです。

**Work** 普段の生活でグ  
ローバル化を意識する  
のは、どのよう  
なときですか。



## + Workの実習例

コンビニやファストフード店、アパ  
レル店など、様々なお店で外国人の  
店員さんと接するとき。多くの外国  
人観光客を見かけるとき。洋服や雑  
貨などの生産国が外国のときなど。

## 発問例

Q①世界中の国の中で、日本や日本の  
企業は今どのような位置にいると  
思うか。

A①悪くない位置にいると思う。中  
国やアメリカに押されていると思  
う。日本製の商品は評判がいいと思  
う。存在感がない。など。

Q②日本企業で世界でも有名な企業  
はどこか。

A②SONY。トヨタ自動車。任天堂。  
パナソニック。日産自動車。キャノ  
ン。など。

Q③行ってみたい国やこれから発展  
しそうな国はどこか。なぜそう思う  
のか。

A③さまざまな国。できればなぜそ  
う思うのかを聞く。

Q④日本の社会で解決すべき問題と  
なっていることにはどのようなこと  
があるか。

A④少子高齢化。労働力不足。ITの  
今後。外国人労働者との協働。環  
境問題。貧困。など。

⇒発問については、社会の課題につ  
いてはなかなか挙がらない可能性が  
あるので、生徒が答えやすいものを  
組み合わせる。

## 解説2 Scene2

Scene2の本文やイラストを通して、  
企業を取り巻く環境や、外国人は顧  
客としてだけでなく、一緒に働く仲  
間としても関わる存在であることに  
気づかせる。また、社会の変化にビ  
ジネスの世界は影響を受けるととも  
に、ビジネスが社会を発展させるこ  
とに気づかせたい。

POINT  
2

社会の発展のために、経済の動きを理解したり、社会に貢献し  
たりしようとする姿勢がビジネスでは大切なことに気づかせる。

Scene 2 企業と社会を成長させる

Q. 企業や社会が成長するためには？

- ・日本や日本企業の状況はどうか？
- ・日本が抱える解決すべき課題はなにか？

少子高齢化、労働力や購買力の低下、環境問題、グローバル化など

企業の成長、存続には

⇒変化に対応する姿勢、社会貢献の姿勢が必要

社会の発展には

⇒経済の動きを理解し、法規に基づいてビジネスを展開する姿勢が必要

Scene3 企業の成績を数字で示す

・科目「簿記」と関連させて導入とする。「簿記」も学び始めたばかりなので、教科書の内容を簡単に解説する。

Scene4 ICTがビジネスを変える

・生徒が身近に接しているICTについて例を挙げさせる。  
・企業にとってICTの高度化がどのようにビジネスを変えるのかについて簡単に解説する。

発問例 ②

Q①お店を経営する時に、記録を残さなかったら、どうなるか。

A①いくら売れたかが正確にわからない。お釣りを間違えても気づかない。どんな注文を受けたか忘れてしまう。など。

⇒経営活動を記録することが簿記だということを確認する。

Q②クラスのみんなから集めたお金で、レクリエーションの材料や景品を買った場合、その後どうするか。

A②お店でレシートや領収書をもらい、それをクラスの人に報告し、おつりがあたら戻す。

⇒預かったお金などをどう使ったかを報告するのが「会計報告」だということを確認する。

解説① ビジネス言語

企業の経営活動は簿記のルールで記録され、会計のルールで報告される。したがって、記録された帳簿および報告された財務諸表には、企業の経営活動が映し出されている。

教科書では、会計=ビジネス言語と述べているが、財務会計Ⅰを学習していない段階では、簿記=ビジネス言語にした方が、生徒の理解は容易になる。

+ Workの実習例 ②

売上、利益、給与、離職率、企業の活動範囲、社会貢献への取り組み、など。

今、ビジネスの世界は

Business

Scene

3

企業の成績を数字で示す

ビジネスの世界における企業の活動は、とても幅広く複雑です。ですから、企業の活動が、順調なかな不調なのかなど、活動の状況をいつも知っておく必要があります。そうしなければ、変化の激しいビジネスの世界では、企業の経営はうまくいきません。また、株主や銀行などから受け取った経営のための資金を、どのように活用して、どれだけ利益を得たのかなどについても、企業は公開、報告しなければなりません。

そこで、企業の活動を一定のルールに従って、記録し、報告する技術が必要となります。その技術が会計です。会計は、ビジネスの世界では企業の活動を映し出す「ビジネス言語」といわれ、ビジネスの世界に生きる人々の共通言語となっています。

**Work** 企業の活動がうまくいっているかどうかは、何で判断すると思いますか。

貸借対照表				損益計算書					
令和〇年12月31日				令和〇年1月1日から令和〇年12月31日まで					
(単位:円)				(単位:円)					
四東商店	資 産	金 額	負債および純資産	金 額	四東商店	費 用	金 額	取 益	金 額
	現 金	640,000	買 掛 金	1,181,000		売 上 原 価	2,695,000	売 上 高	4,684,000
	当 座 預 金	1,050,000	前 受 地 代	12,000		給 付 料	960,000	受 取 地 代	24,000
	売 掛 金	400,000	未 払 家 賃	16,000		広 告 料	273,000	受 取 利 息	36,000
	貸 倒 引 当 金	20,000	資 本 金	3,500,000		貸 倒 引 当 金 繰 入	12,000		
	有 価 証 券	590,000	当 期 純 利 益	415,000		保 険 料	7,000		
	商 品	325,000				支 払 家 賃	48,000		
	貸 付 金	500,000				減 価 償 却 費	90,000		
	貯 蔵 品	5,000				通 信 費	13,000		
	前 払 保 険 料	5,000				雑 費	171,000		
	未 収 利 息	9,000				有 価 証 券 評 価 損	60,000		
	備 品	800,000				当 期 純 利 益	415,000		
	減 価 償 却 累 計 額	180,000					4,744,000		4,744,000
	土 地	1,000,000							
		5,124,000		5,124,000					



多くのライバル企業が存在し、変化の激しいビジネスの世界なので、企業の経営を順調に進めるためには、積極的に会計を利用し、さらに会計情報を広く提供する能力を身につける必要があります。そのために商業を学ぶのです。

POINT 1 簿記の授業などと関連させつつも、深入りしない。

板書例

Scene3 企業の成績を数字で示す  
Q. 企業の成績はどのように評価するのか？  
・評価するための資料は何か  
・資料を得るにはどうするか  
⇒記録する  
簿記：企業の活動を一定のルールに従って、記録する技術  
= 「ビジネス言語」  
⇒報告する：会計報告

1時間以内、2時間以内、3時間以内、3時間以上、それぞれの時間帯で手を挙げさせる。

スマートフォンがなければ、連絡、SNS、写真や動画を撮る、動画を見る、調べもの、音楽を聴く、ゲーム、代金を払う、などができなくなる。スマートフォンの利用により、どのようなメリットがあるかを考えさせる。

### 解説② ICT（情報通信技術）

ICTとは、「Information and Communication Technology」の略称であり、コンピュータを単独で使うだけでなく、ネットワークを活用して情報を共有することも含めた幅広い言葉である。

企業内では、ICTの活用により、社内外でのコミュニケーションがとりやすくなり、テレワークなどが可能となっている。また、顧客対応においても、人が対応しなくても、24時間、場所や時間を問わず、受発注が可能になることで、ビジネスの機会が広がったり、AIやロボットなどの普及により業務が自動化されたりしている。

また、ICTを活用した新たなサービスを消費者に対して提供している。

**Work** 朝起きてから寝るまでの間に、スマートフォンをどれくらい使っていますか。もしなかったら、どんなことで困りますか。



## Business

### Scene

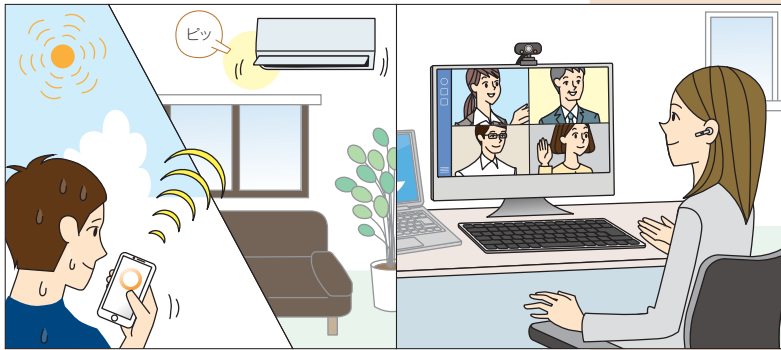
# 4

## ICTがビジネスを変える

ビジネスの世界では、企業のコンピュータと個人のパソコンやスマートフォンなどがネットワークでつながり、情報のやりとりが行われています。そして、ICT（情報通信技術）の高度化がビジネスの世界を飛躍的に変えています。

ネットショッピングでは、実店舗に足を運ばなくても、いつでもどこからでも商品を購入できます。購入履歴をもとに、自分に合った商品も勧めてくれます。このように、ネットショッピングはお客様にとって便利だけでなく、企業にとっても、出店費用が少なくて済む、商圏が広がるなどの利点があります。また、ICTを利用することで、場所を選ばずに仕事をすることも可能になり、働き方も変わってきました。

日常生活もICTの高度化によって変わっています。家電がインターネットにつながり、スマートフォンや音声で操作できるようになりました。また、資産運用の知識がなくても、AI（人工知能）を活用して、少額の資金で資産を運用できるサービスもあります。



今日のビジネスの世界では、ICTをいかに活用するかが、ビジネスの成長を大きく左右します。ですから、私たちは、ビジネスの世界で生きるためにコンピュータや情報通信ネットワークを使い、情報を適切に処理し活用する能力を身につけておかなければなりません。そのために商業を学ぶのです。

Scene4 ICTがビジネスを変える

Q. ICT（情報通信技術）の活用が生活やビジネスをどう変えるか？

消費者は？

- ・情報をすぐに手に入れられる
- ・時間や場所を選ばずに買い物ができたり、さまざまなサービスを受けられたりする

企業は？

- ・業務の省力化
- ・働き方の多様化
- ・新たなビジネスの展開